

## 第5回卓和会歴史・史跡散策

### 順路

鎌倉駅東口 京浜急行バス停⑤「鎌倉霊園正面前大刀洗」又は「金沢八景駅」に乗車→「十二所神社」下車 → 梶原大刀洗水 → 三郎の滝 → 朝夷奈切通（少し登るだけ） → 十二所神社 → 光触寺 → 明王院 → 浄妙寺 → 報国寺 → 昼食「こふく」 ☎0467-23-9091 → 杉本寺 → 鎌倉国宝館 → 鶴岡八幡宮（折れた大イチョウを見学） → 「風の杜」（境内レストラン） 休憩・解散

**梶原大刀洗水** 梶原景時が上総介広常を討ってその太刀を洗ったと伝えられる鎌倉五名水の一つ。

鎌倉五名水：梶原大刀洗水、金龍水、銭洗水、日蓮乞水、不老水。

**三郎の滝** 朝比奈三郎義秀の伝説から付けられた名前の滝。

**朝夷奈切通** 六浦口とも呼ばれる。鎌倉にある七つの切通（鎌倉七口\*）のなかで、当時の姿を最も伝えている。鎌倉幕府は、鎌倉と六浦（横浜市金沢区）を結ぶ道を開くことを1240年11月に決定し、翌年4月5日から工事を開始した（完成時期不明）。3代執権北条泰時が指揮をとり、率先して工事に当たったことが「吾妻鏡（又は東鑑）」に記されている。あまりにも早くこの道が完成したために、朝夷奈三郎義秀が一夜にして切り開いたという伝説がある。

\*鎌倉七口：朝夷奈切通、名越切通、巨福呂坂、亀ヶ谷坂、化粧坂、大仏切通、極楽寺切通の7箇所。その他に釈迦堂切通があるが、鎌倉市内にある切通のため七口には数えられていない。

**十二所神社** かつては熊野十二所権現社と呼ばれ、1278年の創建と伝えられる。もとは光触寺境内にあったが、1838年に現在地に移された。明治維新の神仏分離により十二所神社と改称され、1873年(明治6)に十二所の鎮守となった。鳥居脇に百貫石（実際には28貫＝約112キロ）があり、祭ではこれを持ち上げる力自慢がいたという。

**光触寺** こうそくじ 元は真言宗の寺であったが、1279年一遍上人に帰依した作阿上人さくあが時宗に改めた。以来、念仏道場として栄えた。普段は拝見できないが、寺宝に平安中期の仏師、じょうちよう定朝作の木造聖観音菩薩と身代わりに左頬に焼き印を押された跡があるといわれる頬焼阿弥陀如来像、絵巻物「頬焼阿弥陀縁起」(国重文)などがある。本堂前に、お地藏さんが塩をなめたという言い伝えがある塩嘗地藏がある。

**明王院** みょうおういん 真言宗の寺で、鎌倉幕府4代将軍藤原頼常が1235年、政所(若宮大路御所)から見て十二所が悪い方角にあたるので、鬼門除けとして五大明王をそれぞれまつる五大堂を建立した(五大明王=不動、ごさんぜ降三世、だいいとく大威徳、ぐんだり軍荼利、金剛夜叉)。鎌倉時代から祈祷所として重んじられ、元寇\*\*の際には異国降伏祈祷がおこなわれた大寺院であったが、17世紀の中ごろに火事のため不動明王一体だけを残して焼けてしまった。現在は焼けた4体の明王は造り直され、本尊の不動明王を中心に五大明王が本堂に祀られている。

\*\*元寇:1274年と1281年に元げんのフビライ軍が攻めてきた事変(蒙古襲来)。

**浄妙寺** 鎌倉五山第5位の寺。頼朝の重臣、足利義兼が1188年に退耕行勇たいこうぎょうゆうを開山とし、極楽寺という密教系の寺として建立した。義兼の子義氏よしのぶのときに、らんけいどうりゆう欄溪道隆の弟子の月峯げつぽうりょうねん了然が住職となり臨済宗に改められ、寺名も浄妙寺となった。退耕行勇は、初め真言密教を学んだが、栄西の門下に入り、臨済宗を修めた。頼朝、政子、実朝も帰依した高僧であった。中興開基は、足利尊氏の父貞氏といわれ、この寺に墓がある。室町時代には、幕府の保護を受けた格式かんじの高い官寺として、多数の塔頭をもつ大寺院であった。入山料100円?

**報国寺** 古くから孟宗竹林が有名で、「竹の寺」と呼ばれている。てんがんえこう天岸慧広(仏乗ぜんし禅師)を開山とし、1334年、足利尊氏の祖父家時が建てたと云われているが、宅間上杉氏の祖重兼が建てたとの説もある。足利氏と上杉氏の菩提寺として栄え、5キロメートル先の衣張山きぬぼりやままで境内に含むほどの大きな寺であった。本堂の裏側に回ると、開山の仏乗禅師の遺骨を納めた石塔の休耕庵跡きゅうこうあんは、見事な竹林の庭になっている。裏山には、足利一族の墓と伝えられる大きなやぐらが並んでいる。明治時代に火災にあって、かなりの寺宝をなくしているが、

仏乗禅師が中国から帰る途中作った漢詩約 200 篇を収めた「東帰集」や「天岸」<sup>とうきしゅう</sup>、「慧広」<sup>てんがん</sup>という木印<sup>えこう</sup>、仏像などが、重要文化財として鎌倉国宝館に預けられている。入山料 200 円

**杉本寺** 鎌倉最古の寺。寺伝によると 731 年(天平 3)行基菩薩が関東地方を歩いたとき、鎌倉の大倉山から町をながめ、ここに観音像を置こうと決意、自ら彫刻した像を安置した。その後、観音様のお告げを受けたという光明皇后が、734 年に本堂を建立したといわれている。いつのころからか、この寺の前を馬に乗ったまま通ると必ず落馬するので、「下馬観音」といわれ、建長寺の大覚禅師(欄溪道隆)<sup>らんけいどうりゅう</sup>が祈願し、袈裟で観音を覆ったところ落馬もなくなったので、「覆面観音」ともいわれる。坂東三十三観音霊場の第一番札所。入山料 200 円。

**鎌倉国宝館** 鶴岡八幡宮の境内に建つ歴史・美術博物館。1923 年(大正 12)の関東大震災によって鎌倉の多くの寺社は倒壊、貴重な文化財が失われた。文化財の保護し、あわせて鎌倉を訪れる人々が見学できる施設として 1928 年(昭和 3)に開館した。入館料 500 円

現在「特別展 鎌倉の至宝」が 6 月 6 日まで開催されており、体力的に余裕があれば、見学します。浄妙寺本尊「釈迦如来像」、光触寺の絵巻物「類焼阿弥陀縁起」のほか、建長寺の欄溪道隆象、鶴岡八幡宮の儀式用太刀、黒漆矢などの国宝を見ることができます。(無料招待券 2 枚と福寿手帳をもつ堀井、平田が無料ですので割勘にすれば半額になります)

「鎌倉子ども風土記」及び「鎌倉観光文化検定公式テキストブック」から抜粋・編集。